

平成29年度第2回栗原市総合教育会議議事録

1 招集日時 平成29年11月21日(火) 午後1時30分

2 招集場所 栗原市役所 305・306会議室

3 出席構成員

栗原市長 千葉健司
教育長 佐藤新一 教育長職務代理者 白鳥正文
教育委員 笠間八十公 教育委員 久我一仁
教育委員 千葉みどり

4 説明等のため出席した者

教育部長	佐藤忠実	教育部次長	白鳥嘉浩
教育部次長	小野寺一浩	教育総務課長	入野美奈子
学校教育課長	高橋久悦	学校教育課副参事	渋谷哲也
社会教育課長	高橋一久	文化財保護課長	後藤孝義
教育研究センター所長	原吉宏	教育研究センター副参事	菅原健志
総務部総務課長	佐藤光明		

5 事務局職員

教育総務課 課長補佐 鈴木健 主幹兼総務係長 佐々木としえ

6 開 会

午後1時30分

教育総務課長 皆様ご起立願います。ただいまから、平成29年度第2回栗原市総合教育会議を開催いたします。よろしく願います。御着席ください。栗原市長千葉健司より挨拶を申し上げます。

7 市長挨拶

千葉市長 本日は、お忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。市長に就任してから7ヶ月が経ちましたが、いろいろな出来事がありあっという間でした。公約に掲げました教育、医療、雇用につきましては、できることから進められるよう準備しているところであります。

教育に関しましては、秋田型の教育システムを栗原に早く導入するため、大仙市の小中学校に先生7名を派遣しました。これは、毎年続けていき、この輪を広げていきたいと思っております。また、学力ですが、まずは県の平均を目指し、そのためにはどうするかということをお教育委員会で議論しております。次に社会教育ですが、平成30年度はくりはら市民大学を計画いたしております。一般の社会人の方に学びの場を提供し、もう一度勉強していただきたい。この他にも、東京芸術大学と連携協定に向けて準備中でございます。

本日は、第2回目の総合教育会議ということで、委員の皆様の忌憚のないご意見をお願い申し上げます。

8 出席者紹介 省略

9 議事

教育総務課長 これより先は、栗原市総合教育会議運営要綱第3条第1項に定められておりますとおり、千葉市長に議長をお願いいたします。

千葉市長 それでは、議題（1）「教育等の振興に関する大綱の策定について」、事務局から説明をお願いします。

教育総務課長 「栗原市教育等の振興に関する施策の大綱」について、ご説明いたします。資料は、資料1になります。

本大綱の素案につきましては、第1回の総合教育会議において、市長及び委員の方々から、内容に対するご意見等をいただいたところです。内容につきましては、記載の内容で、よろしいということでしたので、特に大きな修正をしておりませんが、一部について、文言の修正を行っております。修正箇所は、2ページです。基本方針Ⅲ「地域の特性を生かしたかおり高い文化芸術活動の推進」のところの1行目です。「市民が、ふるさとに誇りを持って文化芸術活動ができる環境を醸成し」とありますが、醸成だとゆっくりというイメージがあるので、ここははっきり「環境をつくり」というように直した方が良いのではないかとご意見がありましたので訂正いたしております。

なお、この教育大綱につきましては、平成30年度から平成33年度までの、4年間、栗原市の教育の方向性を定め、教育関連事業の拠り所となるものであります。

今後は、この方向性に沿うように、事業を実施していくこととなりますのでご承知をお願いします。

以上で、「栗原市教育等の振興に関する施策の大綱」の説明を終了いたします。

千葉市長 只今の説明について、皆様からご意見ご質問はありますか。

前回の会議で、委員の皆さまからご意見をいただき、教育大綱の内容については了承していただいたところでした。文言について、修正したところもあるようですが、この案でご了解いただいてよろしいですか。

「異議なし」の声あり

千葉市長 それでは、この案をもって、平成30年度からの「栗原市の教育等の振興に関する大綱」といたします。議題（1）については以上とさせていただきます。

次に議題（2）「平成30年度の主要事業について」、事務局から説明をお願いします。

教育総務課長 本日、ご説明させていただく2事業に関しましては、数ある教育関連事業の中から選定したものです。1つ目の「秋田県に学ぶ大仙市への教員派遣事業」は、学校教育の学力向上策として、平成29年度から継続して取り組むものであります。

2つ目の「くりはら市民大学」は、社会教育事業として、平成30年度新規に取り組む事業となっております。

それでは、担当課よりご説明申し上げます。

学校教育課長 資料2-1をご覧ください。

全国学力トップクラスの秋田県に学ぶ教員派遣事業でございます。もともとは、学力向上プロジェクト事業に入っていましたが、平成30年度から拡充するのに伴い、新たに別個の事業としたものです。事業内容は①市独自の学力向上研究指定校事業は、第Ⅰ期（平成29～30年度）7校（若柳中学校区、栗原西中学校区、金成中学校区）、第Ⅱ期（平成31～32年度）6校（栗駒中学校区、志波姫中学校区）、第Ⅲ期（平成33～34年度）7校（築館中学校区、高清水中学校区、瀬峰中学校区）となります。②「学力向上研究推進協議会」の開催は、年5回ほど予定しております。構成員は、市教育委員会、小・中学校長会、各小・中学校、北部教育事務所栗原地域事務所、学識経験者、宮城教育大学アドバイザーで、「学力向上研究指定校事

業」の評価・検証を行い、その成果を市内の小・中学校に普及拡大するものです。③秋田県大仙市への教員派遣については、月曜日から金曜日までの5日間で派遣先は大仙市立中仙小学校、中仙中学校を予定しています。派遣対象者は、平成29・30年度研究指定校教員7名と平成31・32年度研究指定校教員6名の計13名で、より分かる授業づくりなど、教員の指導力向上を図るためのより実践的な研修を行い、その成果を市内の教員に普及し、全体的な市内の教員の資質向上を図ることを目的としています。④大仙市教育委員会指導主事等による講演会を開催します。参考としまして今年度は、12月8日に予定しています（仮題「秋田県大仙市における算数・数学科の授業づくり」）。なお、講演をいただく指導主事の先生は、教育専門官の経験もあり、かなり詳しい話も聞けるのではないかと考えております。

千葉市長 担当課からの説明をいただきました。委員さんからご質問やご意見をお伺いします。いかがですか。

笠間委員 大仙市で学んできたことを栗原市に定着させるシステムづくりが大事で、先生の異動に左右されないようにしないといけないと思います。それから、地域性も違うので、栗原独自のものを織り交ぜながら、栗原に合ったシステムを考えてみるのもどうでしょうか。

千葉市長 栗原に合った栗原型は大事だと思います。

佐藤教育長 指導要領により大仙市でも学校ですることは同じであります。ただ、やり方や徹底の仕方というのは、素晴らしいものがあります。その辺を研修に行った教員は肌で感じているようですので、それを栗原に根付かせていくためにはもっと人数が多い方がいいので、来年は研修に行く人数を増やしたいと思います。

千葉市長 去年、私は湯沢市の小・中学校に行ってきましたが、正に目からうろこです。楽しくてレベルの高いこんな素晴らしい授業をしているのかと感激しました。私は数学が好きではありませんが、思わず手を挙げてしまいまして、その位自然に巻き込まれるんですね。また、学校自体は栗原の方が立派ですが、湯沢の学校はゴミひとつなく感心しました。これらは、お金がかかる訳ではなく、県と市が同じ方向を見ながらそれぞれの役割を果たしている結果です。もう一つ秋田では、健康で、素直で、協調性がある、根気強くといった要素がないと学力は伸びないという前提の下で行っており、栗原でも徹底したいと思います。とにかく、子どもたちに次元の高い教育を提供することが大事であり、将来地元に残るかとか戻ってくるかといったことは別問題であります。

久我委員 私も研修の報告会に参加しましたが、若い先生方が市長と同じく目からうろこが落ちたと話していました。今年は1回でしたが、例えば同じ先生を2回派遣することも必要なのかなと思いました。また、市内の学校に新しいシステムを普及する際、指導方法の固まったベテランの先生は対応できるのか心配です。

千葉委員 秋田型のシステムを栗原型に改良した場合、全く別のものになりうまく進展しなくなる恐れがあると思います。それから、行って研修を受けることも大事ですが、向こうから来ていただいて授業をしてもらうのもいいのではないのでしょうか。

白鳥委員 若い先生方が研修に行ってきましたが、それを普及させていくためには学校全体の協力と先生方の協調性がないと進まないと思います。特に、ベテランの先生の協力が必要ですので、校長先生方にリーダーシップをとっていただき、チーム学校で学力向上に臨んでいただくことを期待します。

千葉市長 向こうの先生方に来ていただく件と校長先生のリーダーシップの取り方について、教育長はどう考えていますか。

- 佐藤教育長 来ていただける方がいればいいのですが、秋田で教育専門官制度が始まってまだ浅いのでこれを退職したケースがまだなく、なかなか難しいと思われま
- 千葉市長 教育専門官を退職した先生に限らず、校長・教頭経験者に来ていただき刺激を与えて欲しいと思います。
- 佐藤教育長 校長先生のリーダーシップについては、校長会等で指導していきます。
- 白鳥委員 大仙市との交流を今後も継続していけるよう友好関係を大切にしてください。
- 千葉市長 大仙市とは、これを機に様々な交流をしていきたいと考えております。
- 佐藤教育長 資料の中で派遣先が中仙小・中とありますが、決定ではありません。
- 千葉市長 では、次の「くりはら市民大学」について、担当課から説明をお願いします。
- 社会教育課長 それでは、お手元に配付しております資料2-2に基づきまして、平成30年度事業概要〔社会教育分野〕の「くりはら市民大学」についてご説明いたします。この事業につきま
- 先ほど市長からもお話がありましたが、来年度からの新規事業として、取り組む予定としております。これまで、教育センター長会議及び教育部内での協議を行い、平成29年10月19日に開催いたしました第2回栗原市社会教育会議において委員の皆様にご協議をいただき、取りまとめたものであります。事業の目的につきましては、「自分たちが暮らす栗原市の歴史・文化・地域について学習ができ、また、日常生活を快適なものにすることができるよう、暮らしに関わる情報や健康等について学べる市民大学を開設する。」ものとしております。受講対象者につきま
- しては、20歳以上の市民とし定員100名程度を見込んでおります。会場につきましては、栗原市金成庁舎2階ほたるホールを主会場として市内の会場を巡回して開催することとしております。初めは、会場をほたるホールに固定して開催する計画としておりましたが、社会教育委員会議におきまして居住地以外の地区について知っていただくという内容から、金成地区の「ほたるホール」に会場を固定してしまうと高清水・瀬峰地区の皆さんが来づらいため、受講者が少ないのではないかと意見をいただき、巡回することにいたしました。開催時間につきましては、受講生が集まりやすい、土曜日、午後の2時間程度を考えております。授業料は有料とし、今後、料金の設定を検討してまいります。また、受講者から資料代の負担をいただくことも考えております。なお、年間のスケジュール(案)につきましては、資料のとおり予定しており、4月から5月にかけて受講生の募集を行い、6月の開講式から2月の閉校式まで計6回の講座を考えております。テーマについては、比較的、市民の皆さんが取り組みやすい「歴史」「暮らし」「健康」の3分野としております。なお、一定以上の講座を受講した方に修了証書を授与することとしております。講座内容につきましては、今回、委員の皆様から、ご意見をいただき検討したいと考えておりますので、よろしく願いいたします。事業の予算額につきましては概算となりますが、約160万円程度としております。以上で説明は終わります。よろしく願いいたします。
- 千葉市長 担当課から説明がありましたが、委員さんからご質問やご意見をお伺いします。いかがですか。
- 笠間委員 30代から40代の当院のスタッフにテーマを見てもらったのですが、いい返事がなく、年配向けという印象です。対象は20歳以上の市民となっていますが、これだと多分若い方は参加しないのではないかと思います。もし可能であれば、アンケートをとるのも一つの方法ではないでしょうか。それから、都会の大学の先生や話題になっている方とかを呼ぶのもいいと思います。
- 千葉市長 今、ご意見がありましたが、仙台や東京に行かなくても最先端の話を開けるとい

いといけないと思います。また、確かに20代を対象とした内容ではなく、やっとう育てが終わって自分の時間を作れる方というイメージだと思います。

佐藤教育長

対象を絞った方がいいかもしれない。

千葉市長

40代以上だと思う。

久我委員

年代を絞るのは、私も賛成です。あと、例えば、市内にいい神社がありますが、謎解きみたいな感じでそこに行かせるような手法を考えるのもいいのではないのでしょうか。それから、ヨガは世界的に流行っていますが、栗原の場所でしかできないヨガとかも面白いと思います。

千葉委員

内容がご年配向けと感じました。また、対象の年齢層を広げ過ぎると話や話題が合わなくなると思うので、先ほど話があったように絞った方がいいと思います。

白鳥委員

対象は上の年代が妥当と思います。それから、今年、入の沢遺跡が国指定になり、伊治城も1,250年と節目を迎えていますので、その辺も取り入れてもいいのかなと思います。

千葉市長

年間の授業料ですが、都市部では数万円というケースもありますが、私は3千円から5千円位と考えていますが、みなさん、いかがでしょうか。

笠間委員

普通に考えれば高くはないと思います。

久我委員

1回につき5百円から千円位ではないでしょうか。

千葉委員

年間5千円が限度だと思います。

白鳥委員

あとは、内容次第ではないでしょうか。

千葉市長

この件に関しては、事務局で精査していただきたいと思います。

10 その他

千葉市長

皆さま、何かございますか。

白鳥委員

国語や算数などを勉強したい市民がいれば、小学校で受け入れても良いのではないのでしょうか。子どもと高齢者等との交流にも繋がります。

千葉市長

戦争などで学校に行けなかった方もおられますので、いいご提言だと思います。事務局では、幅広く検討していただきたいと思います。

まだまだご意見はおありのことと思いますが、本日の会議は以上とさせていただきますよろしいでしょうか。本日はお忙しいところ大変ありがとうございました。それでは事務局にお返しします。

11 閉会

教育総務課長

本日は、貴重なご意見をいただきありがとうございました。今年度の総合教育会議につきましては、予定としては今回で終了となります。今後は、緊急的案件がある場合に招集となりますのでよろしくお願いいたします。

それでは皆様ご起立願います。以上をもちまして、第2回栗原市総合教育会議を終了いたします。お疲れ様でした。

午後2時25分